

長野馬貞顕彰俳句大会が行われましたー特選に輝いた作品を紹介しますー

●お問い合わせ 東飯田公民館 ☎76-3116

今年で29回目の開催となる「長野馬貞顕彰俳句大会」は、町内小・中学生を対象に、かつて俳人として活躍した長野馬貞を顕彰し、開催しています。(主催：長野馬貞顕彰俳句大会実行委員会)

●今年度は小学生229名321句、中学生206名206句の応募をいただきました。どれも素晴らしい句ですが、次の5句を取り上げたいと思います。

「春風に 背中押されて 走る僕」

東飯田小 五年 伍藤 唯人

春風に押されて走るといふ表現がとても印象的です。これは何よりも唯人君が元気で学校が楽しいからでしょう。元気の出るよい句です。

「ひまわりが えがおでさくよ 黄色だよ」

南山田小 二年 樺木 るな

ひまわりが笑顔にみえました。それも黄色の笑顔。よく観察しています。美しい風景がうかんできますね。

「いもうとが せなかにのるよ 夏休み」

野矢小 四年 今村 光佑

いもうとさんは、おにいちゃんが大好きだというのがよくわかります。仲の良い兄妹だなあと感心する句です。

「バッタはね 草をわたつて 行くんだよ」

飯田小 二年 武石 修依

バッタはすごい距離をとびます。それを草をわたるとじょうずに表現しました。発見力のあるよい句です。

「タンポポの 飛ばない綿毛 あまえんぼ」

緑陽中 一年 佐藤 羽菜

タンポポの綿毛はやわらかくやさしいよね。それを見ながら飛ばないのは「あまえんぼ」といったのはとてもユニークです。



特選作品を紹介します

てつぺんにはぐろとんぼがいたんだよ
きょうそうだ線香花火パチパチと
力持ち 虫の王者だカブトムシ
砂時計さらさら落ちる夏の夕
土砂降りだ蛙も急いで雨宿り
冬の朝みんなの靴が並んでる
キンキンの麦茶をゴクツとひと休み
いつか去る年に一度の暑い夏
田舎道ゆうがたしらせるひぐらしが
ひぐらしは歌にみたててないてる
えんてんかアイスでえがおきみのかお
夏祭りわたあめの雲ふわふわだ
雪合戦笑顔でほおも手もまつ赤
彼岸花川の向こうでほえんで
風にゆれ仲間と踊るクロバー
太陽と君の笑顔がかさなるよ
桜道笑顔の君に手を振った
ひまわりが咲いたらみんなで背比べ
紅葉狩り君の笑顔もあかあかと
ひまわりよみんなの笑顔がさきほこる
虹かかり君の心も晴れてゆく
夜を舞う蛍が描いた日記帳
雪合戦あたってあてて笑顔咲く
雨上がりとおくにつなぐ虹の橋
伝えてる別れと出会いを菜の花が



伍藤 聖菜	松原 実虹	清水 圭慈	小幡 翔一	宮崎 勇人	甲斐 幸音	河野 紗奈	内野 圭都	佐藤 天音	日野 光	佐藤 紫織	秋吉 陽葵	岡本 新大	佐藤 よつ葉	有吉 優衣	岩尾 心花	乙津 美魅	宿利 董恋	由迫 峻	高平 大地	有吉 優翔	佐藤 優菜	小野 美来	坂本 彩夏	日野 晴菜
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

長野馬貞

(1671年～1750年) 馬貞は、父から医術と俳諧の手ほどきを受けた。玖珠や日田俳壇で才能を伸ばし、はやくも9歳で「夜も明けば松茸採らぬ裏の山」と詠んでいる。36歳のとき、最初の撰集「俳譜七異跡集」を京都で発行した。飯田高原に伝わる朝日長者伝説や七不思議の説明文を全国の俳友に配り、それを基にした投句から秀句を選び、自身の句と合わせて撰集したもの。他にも引治に産出する木の葉の化石にちなんで「紫石集」や「朝ひばり」・「山の湯紀行」・「祇園守」など、数集を編纂している。



「唐移す 滝の気色や 寒のうち」 馬貞 (龍門の滝を背景にした龍門寺の境内にて) ▶